

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800060		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム牧之原波津の家		
所在地	静岡県牧之原市波津1324-17		
自己評価作成日	2020/6/24	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295800060-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 2 年 7 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の方との関わりが待てるよう、小中学生の交流を持つようにしています。個々の思いを汲み取り、大切に出来るよう心掛けています。家族との関わりが引き続きとれるよう、ご家族様にも協力して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所近く出身者が多く、面会や運営推進会議参加など、家族の訪問が多い。職員は、「波津の家だより」や個別アルバムを作って、利用者・家族とコミュニケーションの機会を大切にしている。事業所の隣敷地の畑を利用した近隣の小学生との草取り・収穫体験や、中学生の職場体験など、地域交流の機会が多い。コロナ禍での交流機会は制限されているが、地域住民との関係継続に努めている。運営推進会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降書面開催を続けている。食事は、収穫した野菜を利用した手作りで提供され、毎年利用者の「嗜好調査」を行い、献立作りや行事食作りに役立っている。災害発生時の電源確保対策として、隣接する太陽光パネルソーラシステム所有者の好意により、発災時にはケーブルをつなぎ電気の供給を受けることができる。同じエリアにある同じ法人の5事業所で、定期的に館長会議を開いて情報交換を行い、事業所運営に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由にありのまま、地域と関わりを持って仲間と一緒に暮らす」という理念を持ち、事業所内にも掲示することにより、職員間でも共有できるようにしています。	法人と事業所の理念は、事業所内に掲示するとともに、毎週月曜に行う朝礼の際、職員全員で確認している。毎月行う職員会議や月2回のユニット会議では議事録を取り職員同士に回覧をして、常に確認できる環境を整え、理念に基づく支援を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設へ訪問したり、小学生との農業体験・交流会の機会を作っています。中学生の職業体験も受け入れており、地域密着型を心がけています。散歩の途中には「あそこの人だね」「散歩日和だね」と声を掛けて頂いています。	事業所の隣敷地の畑を利用した近隣の小学生との草取り・収穫体験や、中学生の職場体験での訪問があり、地域交流する機会が多い。職場体験をきっかけに車椅子を寄贈された。コロナ禍での交流機会は制限されているが、つながりは継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防災訓練を通じて認知症の人の理解を深めて頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や行政、ご家族に参加して頂き、施設での取り組みや現状を説明し、問題点があれば意見を頂き、良い取り組みには賛同して頂いています。	市職員・地域包括支援センター職員・市議会議員・民生委員・利用者及び家族、職員の参加を得て、2か月に1回運営推進会議を開催している。スライドショーを利用して、情報共有を図っている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降は資料を郵送して、書面での会議を開いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いています。介護相談員の派遣もあり、利用者様からの声を取り上げて頂いています。新型コロナウイルス感染症予防対策の際は協力を頂きました。	市職員・地域包括支援センター職員は、運営推進会議への参加だけでなく、常に連絡が取れる関係である。新型コロナウイルス予防のための消毒薬・マスクの配布時には、事業所の状況に応じて、迅速に対応してもらうことができた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎週の朝礼で身体拘束についての教育があり、職員も意識しています。3ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を開き、身体拘束による弊害や具体的な行為について学んでいます。	身体拘束0宣言を掲示し、法人研修・毎週の朝礼・毎月の職員会議にて、常に確認し合える環境を整えている。3か月に1回「身体拘束適正化委員会」を開催し、具体的な課題を検討するとともに、虐待防止チェックシートを利用して職員自らが確認することができる。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼では系列グループの問題点も共有し、同じことが施設で起こらないよう注意し合っています。会議等でも話し合っています。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人が付いている方もいるので職員も多少の理解が出来てきている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所の際、説明し、納得を得て印を頂いています。その後も疑問があればその都度お答えしています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、日頃から何かあれば意見を頂いています。意見箱も設置しています。	事業所近くに住む家族が多いため、運営推進会議への家族参加が多く、請求書受け取り時などの訪問の際にも意見を聴くことができる。「波津の家だより」や個別アルバムを作り、日頃の様子を伝えて、コミュニケーションの機会を多くすることを心掛けている。	運営推進会議参加の家族とは、定期的に職員と家族との意見交換が行われているが、コロナ禍による家族面会の機会が減る中、事業所運営に関する家族アンケート調査の実施を検討されたい。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やフロア会議で意見や提案を話し合っています。個人面接も行い、直接意見を伝えてもらう事もあります。	1年に1回個人面談を行い、職員の意見聴き取りの機会を設けている。管理者が個別に話し合うこともあるが、職員会議・フロア会議を利用して、職員同士で話し合うことを大事にしている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による個人面談や、日常の業務態度により個人評価を行い、賞与に反映しています。資格手当も充実しており、やりがいに繋がっています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼や職員会議で研修しています。外部の研修が有る時には声をかけ合い、参加しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設とは運営推進会議を合同で行ったり、他施設も参加する勉強会へ参加しています。近隣デイサービスには訪問させて頂いています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で挨拶し、冗談も含めながら本人の困っている事や不安に思う事を伺い、ご家族とも連携し、少しでも軽減できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見も聞きながらサービス内容を考えています。来設時にはコミュニケーションをとり、要望など言いやすい関係づくりを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供する時には本人や家族の要望を聞き、必要なサービスを話し合って決めています。必要に応じてプランを変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事仕事をしたり、レクや食事など行動を共にして生活しています。農作業や料理など得意な事には率先してやって頂き、職員はお礼の言葉を必ず伝えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には最近の様子を伝え、ご本人が居心地の良い場所に慣れるよう一緒に考えて頂いています。受診にもご家族が同行され、ご本人の状態を把握して頂くこともあります。状態により家族にも電話や来設など協力を頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にもご友人やご親族に方にも来て頂けるよう声をかけさせて頂いています。最近では新型コロナの影響で面会をお断りしていますが、落ち着いたら来て頂けるよう声をかけさせて頂いています。	共通の趣味をもつ友人の訪問(和琴・ギター・七福神の衣装など)や、馴染みの店への買い物など、関係が続けられるよう支援している。入居期間が長く、高齢の利用者が多くなることから、事業所や職員が馴染みの関係となれるよう、利用者との関係づくりを心掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話やレクを通じて関わりが持てるよう支援しています。個々の性格を知ったうえで席を変えたりしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には「また何かあれば」と声をかけさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の関わりの中で、言葉や行動からご本人の思いや意向をくみ取るよう努めています。	入居時にフェイスシートや面談表を利用して、利用者・家族の意向を確認している。モニタリング時だけでなく、毎日の会話から利用者の思いの把握に努め、介護詳細記録や業務日誌に都度記録することを心掛け、職員間の情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には今までの生活歴や馴染みの物を聞き取り、続けていけるよう努めています。入所後も普通の会話から今まで大切にしてきたことなどを聞き出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や変化を個々の記録や連絡ノートを活用して職員が把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の意見を伺いながら、職員同士で必要な支援について話し合っています。	法人作成の「評価表(モニタリング実践記録表)」や介護記録で、毎日介護計画を確認しながら支援することができる。家族や利用者からの意見は都度メモをつけて、職員会議・3か月ごとのモニタリング時や担当者会議にて話し合うよう心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートに記入し、情報共有に役立っています。書く人が固定しているので皆で記入していきたいです。ご本人の発言をそのまま記載してくれているときは介護計画に見直しに役立っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や福祉用具貸与などのサービスを家族と相談し、提供しています。新型コロナウイルスの件で家族が動けない時には職員が代行し行っていることもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流や中学生の職場体験の受け入れをしています。公民館祭りへの参加したり、近所のスーパーやコンビニへ買い物に行けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医か施設の協力医か選んでいただいています。協力医には月1回は受診か受薬に行き、状態について相談しています。	協力医をかかりつけ医として月1回受診して、健康状態を確認している。他科受診については、家族の協力を得て、総合病院など以前からの病院への通院を支援している。週1回看護師が訪問して利用者の状態を確認し、職員・家族との情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1日、看護師が出勤するため気になったことは記入し、変化などにはマーカーを引き、状態を伝えています。指示やアドバイスも頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中には病院の相談員と連絡を取り、経過を聞いています。必要があれば様子を見て伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については家族と話し合っています。職員間でも話し合い、方針を共有しています。訪問看護の講習会を開いて頂いています。	重度化した場合の対応について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。看取りの支援については、「重度化した場合の指針」及びマニュアルを整備し、看護師による講習会を年1回開催し、訪問看護を利用した看取りについて職員間で話し合える機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルが事務所にあり、職員は周知しています。消防署に来て頂き、救急救命の講習をして頂きました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、消防署より指導して頂いています。実施後には職員で改善点などを話し合っています。運営推進会議でも災害時の対応について話し合い、意見を頂いています。	年2～3回、火災、地震、夜間想定避難訓練を行っている。運営推進会議においても災害時対応の意見交換をしている。隣接する太陽光パネルソーラーシステム所有者の好意により、発災時には、ケーブルをつなぎ電気の供給を受けることができる。	水・米の備蓄について、ローリングストック法を活用し、普段から大目に備蓄していますが、具体的な備蓄量(3日分など)を決め、職員誰もがわかりやすく備蓄品管理ができるよう、備蓄品台帳の整備を検討されたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を考慮して、その人に合った声掛けや対応を心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや散歩コースなど希望に添えるよう、選択できるような声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務時間により難しいことはあるが、時間をずらして頂きながらも希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るよう声掛けや介助をしています。化粧品など無くなりそうときにはご家族へ連絡して持ってきて頂いています。アクセサリ類は紛失してしまう方も多く、家族に返すこともあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回は嗜好調査を行い、希望のものが提供できるよう努めています。毎日の食事作りでは利用者に常に手伝って頂いています。キッチンに立てない方でもテーブルで盛り付けをして頂き、目や鼻でも食事を楽しんでいただいています。	買い出し、畑での野菜作り、盛り付け、配膳など、利用者も協力しながら、3食とも職員が手作りで提供している。年1回「嗜好調査」を実施して、利用者それぞれの好みを聴き取り、日々の献立や行事食のメニュー作りに反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を使い、足りない方には補水して頂いています。食事の様子を観察し、必要に応じて食事形態を変えるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助により口腔ケアを行っています。数名、訪問歯科に来て頂き、治療を受けている為、ケアのアドバイスを受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄パターンを掴むよう努めています。	「排泄チェック表」を記入し、利用者それぞれの状態に合わせた声掛けを心掛け、自立支援を行っている。夜はポータブルトイレを利用している方も、昼間はトイレ使用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使い、排便管理に努めています。牛乳や寒天を使ったゼリーや食物繊維が多い食材を使って排便を促しています。必要な方は服薬により排便をコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間により、入浴時間は決まっています。熱い湯好き、ぬるい湯好きなど好みを聞き、お風呂の順番を考えています。	毎日午後1時半から、1日おきに入浴できるように対応している。入浴拒否がある場合は、入浴剤(みかん風呂)を用意したり、入浴の順番を工夫している。利用者の状態に応じて、シャワーチェアも利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や不安な方への声掛けにより安心して頂けるよう支援しています。その日の状態により眠剤を調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には様子を記録し、医師や薬剤師、看護師に相談しています。カルテを見直し薬情を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や草取りなど個々の得意な事を活かしてお手伝いをお願いしています。作品を飾ったり、感謝の言葉を伝えています。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日には散歩や買い物に出かけています。家族と外出する事もあります。新型コロナウイルス前には定期的に外食や花見などに出掛けていました。	外食(寿司屋)やお花見へのドライブや、近隣のデイサービスや近くの神社まで散歩するなど、外出を支援している。新型コロナウイルス感染防止対応のため外出機会は減っているが、洗濯干しや畑作業など、外気浴ができる機会を心掛けている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理していますが、要望があればコンビニやスーパーに嗜好品を買いに出かけています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば出来る限り対応しています。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう清潔に気を付け、整理整頓しています。室内は壁画、玄関は鉢植えで季節感を出しています。	室内清掃や畑の草取りなどを利用者と一緒に行い、清潔な空間作りを心掛けている。小学生の作品や鉢植えを飾り、季節感が分かるように工夫している。ソファを置いている場所は、窓から外を眺めたり、利用者個々のアルバムを置いて、利用者と職員や面会の家族との団楽の場所として利用できるように、環境を整えている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外にもソファを置き、好きなところで思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っている家具や日用品などを入所時には持ってきて頂き、安心して過ごせる居室にしています。状態により危険だと判断した時にはご家族と相談して持ち帰って頂き、安全な居室にしています。	エアコン・クローゼット・ベッド・洗面台が造り付けられている。以前から使用している家具などを持ち込み、入居前からの暮らしが続けられるように支援している。利用者の状態に合わせて、必要の可否を家族と相談しながら、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーになっています。トイレなどわかりにくい所は立体的に表記することで解りやすく工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800060		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム牧之原波津の家		
所在地	静岡県牧之原市波津1324-17		
自己評価作成日	2020/6/24	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295800060-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 7 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の方との関わりが待てるよう、小中学生の交流を持つようにしています。個々の思いを汲み取り、大切に出来るよう心掛けています。家族との関わりが引き続きとれるよう、ご家族様にも協力して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由にありのまま、地域と関わりを持って仲間と一緒に暮らす」という理念を持ち、事業所内にも掲示することにより、職員間でも共有できるようにしています。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設へ訪問したり、小学生との農業体験・交流会の機会を作っています。中学生の職業体験も受け入れており、地域密着型を心がけています。散歩の途中には「あそこの人だね」「散歩日和だね」と声を掛けて頂いています。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防災訓練を通じて認知症の人の理解を深めて頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や行政、ご家族に参加して頂き、施設での取り組みや現状を説明し、問題点があれば意見を頂き、良い取り組みには賛同して頂いています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いています。介護相談員の派遣もあり、利用者様からの声を取り上げて頂いています。新型コロナウイルス感染予防対策の際は協力を頂きました。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎週の朝礼で身体拘束についての教育があり、職員も意識しています。3ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を開き、身体拘束による弊害や具体的な行為について学んでいます。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼では系列グループの問題点も共有し、同じことが施設で起こらないよう注意し合っています。会議等でも話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人が付いている方もいるので職員も多少の理解が出来てきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所の際、説明し、納得を得て印を頂いています。その後も疑問があればその都度お答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、日頃から何かあれば意見を頂いています。意見箱も設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やフロア会議で意見や提案を話し合っています。個人面接も行い、直接意見を伝えてもらう事もあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による個人面談や、日常の業務態度により個人評価を行い、賞与に反映しています。資格手当も充実しており、やりがいに繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼や職員会議で研修しています。外部の研修が有る時には声をかけ合い、参加しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の施設とは運営推進会議を合同で行ったり、他施設も参加する勉強会へ参加しています。近隣デイサービスには訪問させて頂いています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安に思う事を伺い、ご家族とも連携し、少しでも軽減できるよう努めています。その後も沢山会話し、言いやすい関係が作れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見も聞きながらサービス内容を考えています。来設時にはコミュニケーションをとり、要望など言いやすい関係づくりを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供する時には本人や家族の要望を聞き、必要なサービスを話し合って決めています。必要に応じてプランを変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事仕事をしたり、レクや食事など行動を共にして生活しています。農作業や料理など得意な事には率先してやって頂き、職員はお礼の言葉を必ず伝えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時には最近の様子を伝え、ご本人が居心地の良い場所に慣れるよう一緒に考えて頂いています。受診にもご家族が同行され、ご本人の状態を把握して頂くこともあります。状態により家族にも電話や来設など協力を頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にもご友人やご親族の方にも面会に来て頂いています。外出や外泊の機会がもてる様支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が問い入り、会話やレクを通じて関わりが持てるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には「また何かあれば」と声をかけさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の関わりの中で、言葉や行動からご本人の思いや意向をくみ取るよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には今までの生活歴や馴染みの物を聞き取り、続けていけるよう努めています。入所後も普段の会話から今まで大切にしてきたことなどを聞き出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や変化を個々の記録や連絡ノートを活用して職員が把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の意見を伺いながら、職員同士で必要な支援について話し合っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートに記入し、情報共有に役立てています。書く人が固定しているので皆で記入していきたいです。ご本人の発言をそのまま記載してくれているときは介護計画に見直しに役立っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や福祉用具貸与などのサービスを家族と相談し、提供しています。新型コロナウイルスの件で家族が動けない時には職員が代行し行っていることもあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流や中学生の職場体験の受け入れをしています。公民館祭りへの参加したり、近所のスーパーやコンビニへ買い物に行けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医か施設の協力医か選んでいただいています。協力医には月1回は受診か受薬に行き、状態について相談しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1日、看護師が出勤するため気になったことは記入し、変化などにはマーカーを引き、状態を伝えています。指示やアドバイスも頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中には病院の相談員と連絡を取り、経過を聞いています。必要があれば様子を見るに伺っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については家族と話し合っています。職員間でも話し合い、方針を共有しています。訪問看護の講習会を開いて頂いています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルが事務所にあり、職員は周知しています。消防署に来て頂き、救急救命の講習をして頂きました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、消防署より指導して頂いています。実施後には職員で改善点などを話し合っています。運営推進会議でも災害時の対応について話し合い、意見を頂いています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を考慮して、その人に合った声掛けや対応を心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表す事ができるよう、選択できるような声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の勤務時間により難しいことはあるが、時間をずらして頂きながらでも希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るよう声掛けや介助をしています。希望を出来るだけ考慮した服装で過ごして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回は嗜好調査を行い、希望のものが提供できるよう努めています。毎日の食事作りでは利用者に常に手伝って頂いています。目や鼻でも食事を楽しんでいただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を使い、足りない方には補水して頂いています。食事の様子を観察し、必要に応じて食事形態を変えるよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助により口腔ケアを行っています。数名、訪問歯科に来て頂き、治療を受けている為、ケアのアドバイスを受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄パターンを掴むよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使い、排便管理に努めています。牛乳や寒天を使ったゼリーや食物繊維が多い食材を使って排便を促しています。必要な方は服薬により排便をコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間により、入浴時間は決まっています。週3回はゆっくり入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり室温で布団を変えたり衣類調整をして快適に睡眠がとれるよう配慮しています。また、日中も休息のため横になって頂いている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には様子を記録し、医師や薬剤師、看護師に相談しています。カルテを見直し薬情を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や草取りなど個々の得意な事を活かしてお手伝いをお願いしています。作品を飾ったり、感謝の言葉を伝えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日には散歩や買い物に出かけています。家族の協力を得て、ドライブや外出・外泊する事もあります。新型コロナウイルス前には定期的に外食や花見などに出掛けていました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理していますが、要望があればコンビニやスーパーに嗜好品を買いに出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば出来る限り対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう清潔に気を付け、整理整頓しています。室内は壁画、玄関は鉢植えで季節感を出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外にもソファを置き、好きなところで思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っている家具や日用品などを入所時には持ってきて頂き、安心して過ごせる居室にしています。状態により危険だと判断した時にはご家族と相談して持ち帰って頂き、安全な居室にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーになっています。トイレなどわかりにくい所は立体的に表記することで解りやすく工夫しています。		